

南の風

- ・巻頭言
- ・学習のあしあと・その3
- ・いじめ見逃しゼロスクール旬間
- ・インフルエンザ感染対策、1月の予定



「歩育」のススメ

校長 若狭 陽一

12月18日（月）の朝、初めて雪が積もりました。あられの粒が解けないように、掌をそっと開けたままにしている子ども。小さな雪だるまを手に乗せた子ども。長ぐつ、マフラー、手袋、耳当てという完全防寒の子ども。「靴を間違えちゃった」と、恥ずかしそうに指で短靴を指す子ども……。この日は、これまでと違った登校風景です。寒く雪が降る中、がんばって登校した子どもたちに拍手を送りたい気持ちになりました。

子どもたちは、時には、「行きたくないな」、「歩くのが辛いな」などと思う日もあったことでしょう。そのような中、保護者の皆様に背中を押され、勇気をふり絞って、がんばって登校してきたはずです。このがんばりを、学校も家庭も地域も、みんなで認めていきたいものです。

子どもの自立を促すために、自分の足で歩かせる「歩育」という言葉があります。歩く中で自然や社会に触れさせることが、子どもの豊かな心、生きる力の育成につながるという考えです。歩いて登校することのメリットは、次のようなことが挙げられます。

- ①体力が付く・・・・・・・・・・片道1kmだとしたら、1日2km。1年で400km歩くことになります。
- ②忍耐力が付く・・・・・・・・・・とにかく自分で歩かなければ、学校にも家にもたどり着けません。この自分で何とかしようとする気持ちを大切にしたいですね。
- ③感性が育つ・・・・・・・・・・冒頭で述べたとおり、季節を感じるなど、五感を働かせる機会が増えます。
- ④あいさつで心が温くなる・・・地域の方や友達とあいさつを交わすことによって得られる「自分は多くの人々に見守られているのだ」という感覚は大切ですね。
- ⑤始業前の頭の暖機運転になる・・・血液循環もバッチリ。眠気も覚め、1時間目から集中できます。

しかしながら、猛暑や荒天、豪雪、不審者、交通事故などの心配から、自家用車で送る家庭もあります。さらに、遠距離通学による心身への負担も考慮し、バス通学も行っています。一概に



「雪が降ると、靴箱の風景も変わります」

「全員、歩き」とはいかないのものの事実です。ただ、子どもが安易に自家用車で送迎を求めたのならば、「歩くこともいいよ」と背中を押していただけたらと思います。さらに、歩けた日があったのならば、「すごいね。がんばったね」と褒めていただきたいと思います。

本格的な冬が到来しました。どうぞ、充実した冬休みをお送りください。休み明け、また元気に登校する子どもたちに会えるのを楽しみに待っています。